

佐世保に残る中世の石造墓碑・供養塔



■宗家松浦家当主(13代~19代)の墓石について

松浦党の自家筋である宗家松浦氏(相神浦氏)は13代盛の代に今福から現在の佐世保市竹辺町に城を築き移り住んだといわれている。13代から19代までの当主の墓はすべて相浦近辺に残存しており、13代盛の時に本拠を相浦に移した証拠となっている。宗家松浦氏は平戸松浦との永きに亘る戦いの後、16代親の時に平戸松浦氏に併合される、その後は大村や龍造寺などの有力な武将との戦いになる。しかしその争いも秀吉の九州平定により鎮圧され、18代定の頃には大村氏などと共に朝鮮出兵へと駆り出されている。その後秀吉が死去し関ヶ原で家康が天下を統一する頃には20代信貞の代で、今福に1500石の知行をもつ事になる。今福から相浦へ移住してから220年余、佐世保の地に数々の武勇と痕跡を残し、再び今福の地へもどった宗家松浦氏だった。なお、その子孫は徳川氏に取り立てられ、代々江戸に住居し幕府旗本として続いたという。

歴代当主データ	13代 盛 ^{さかり}	14代 定 ^{さだむ}	15代 政 ^{まさし}	16代 親 ^{ちかし}	17代 親 ^{ちかし} (九郎) (養子)	18代 定 ^{さだむ}	19代 正 ^{ただし} (信正)
建立期	1467(応仁元年)	1492(延徳4年)	1542~1570頃	1542~1570頃		1754(宝暦4年)	1624(寛永元年) 正の子が建立
建立場所	東漸寺 (とうぜんじ) [中里町]	阿弥陀堂 (あみだどう) [竹辺町]	志賀神社 [瀬戸越] 現在は大智庵城跡	東漸寺 竹林寺 矢峰	金照寺 (こんしょうじ) [相浦町]	金照寺(相浦町) 墓は元々金照寺の本堂の所にあったが明治33年に本堂が新築される時に現在の位置に移されている。	阿弥陀堂 (あみだどう) [竹辺町]
石種類	緑泥片岩製 (りよくでいへんがん)	緑泥片岩製 (りよくでいへんがん)	安山岩 (あんざんがん)			五輪塔 (ごりんとう)	自然石
墓種類	宝篋印塔 (ほうきょういんとう)	宝篋印塔 (ほうきょういんとう)	宝篋印塔 (ほうきょういんとう)				板碑
その他	市指定文化財 		市指定文化財 		田舎廻にある見取図によれば、17代親(九郎)とその室の墓は金照寺にある18代定とその室の墓の間にはさまれるように建てられていたという。しかしなぜか現在は見あたらない。18代定の墓は一度移動されており、その際に紛失したのか、もしくは台座に埋もれているのかも知れない。 		

※逆修碑(ぎゃくしゅうひ):生前に死後の安泰を願って建てられた供養塔。



主な武将の墓・供養塔

遠藤但馬守

但馬守の供養塔は市内に数カ所あり、みんな1750年前後の江戸中期頃に建立されている。

- 1 但馬神社の頂上に祀られている小さな石祠には寛延三(1750)年の記名があり、これが遠藤但馬守の供養塔である。
- 2 竹辺の県立擁護学校の近く、倉氏の裏の大木の下に、遠藤但馬守の碑はひっそりと祀られていた。ここにはお経が納められた経塚も埋まっていたという。前を流れる小川(今は側溝となっている)付近を「討たれ波江」といい、元亀三(1572)年遠藤但馬守が殺された所であると伝えられている。
- 3 吉岡団地へと向かった。住宅の間を上って行くと、一段高い所に遠藤但馬守の供養塔が祀られていた。青や黄色の旗が風になびく石段を上ると、武辺のものと同じような形の石碑が立っていた。石碑の中央には遠藤但馬守と刻まれ、その横には寛延二(1749)年の年号と中里東漸寺の住職光隆の名が見えた。元々この石碑は現在の場所より80mほど下にあったが、住宅地造成の折、現在地に移された。

吉岡天満宮の鳥居を中心に東西に並んでいた十三塚の幾つかが今も残っている。この十三塚の上、商業高校の入口あたりを流れる小川が夜討ち川と呼ばれ、この付近も遠藤但馬守が謀殺された場所であるという伝説が残っている。

- 4 牧ノ地妙観寺あとに寺屋敷と呼ぶ場所がある。ここには観音堂や中世墓地群が残っている。この中で特筆すべきは陀羅尼經の刻んである嘉吉三(1443)宝篋印塔である。寺屋敷の少し上の前田さん宅の裏山にも遠藤但馬守ゆかりの石祠が祀っており、宝暦五(1755)の記銘がある。明治の初頭まで、地元の人々が但馬講と称して酒宴を催したり、これら市内の供養塔に集い、鎮魂祭を行っていたという。



場所: 吉岡団地

赤崎伊予守

山中観音堂



山中観音堂と西方寺にある。

山本右京



元々は中触にあったが子孫の方が昭和47年現在地(山本家墓地)に移した。

松浦 鎮

(まつうらしげる)



菟田ダム工事で現在地へ移された。菟田バス停の左手。

佐々可雲



広田小学校前の堂山に首塚がある。

指方善芳



江上小学校左手の小高い丘の上。

紫加田美濃守



東光寺墓地にある。元々里の作永衣料店の裏の畑にあったものを建築移転のため移したという

手光宗作



宗家松浦氏の家臣で連歌師として活躍した人物。筒井町に手光宗作を祖とした一族の墓がある。

大村源次郎純定



宮津町の山中にある。葛の峠の戦いでしんがりとして戦い名誉の死を遂げた。

小佐々弾正・甚五郎



ハウステンボス駅下の駐車場から川沿いに南へ5分ほど進むと民家の脇を雑木林へ進む道がある。

志佐氏墓石群

市指定史跡



直谷城の麓を流れる福井川沿いに代々の城主とその妻の墓がある。

紫加田一族墓石群



佐々の千人堂の椎の巨木の裏にある。平戸軍と相浦軍の戦いで戦死した柴加田一族の墓。

深江氏三代墓石群



江迎町の寿福寺に深江城主の三代(純本-純忠-忠昌)の墓。写真左手前から深江忠昌、志佐純本、深江純忠

都蔵寺氏墓石群

市指定記念物



太田バス停より南へ田のあぜみちをたどり、小川をまたいだ右手樹林の中にある。

薬王寺供養塔

市指定文化財



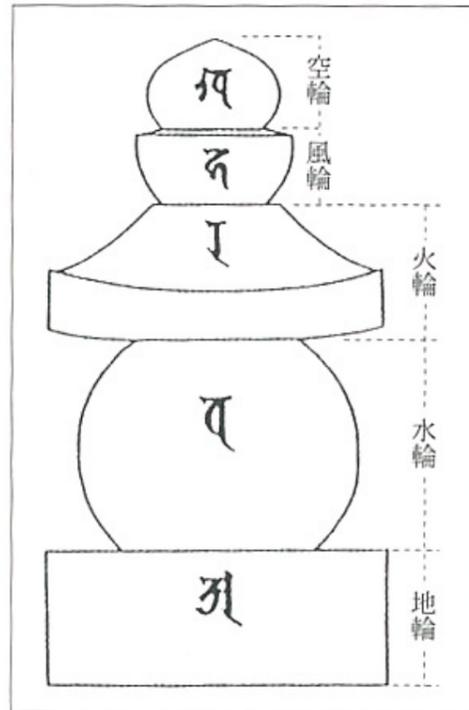
井手平城の戦いでの戦死者21名の法名と俗名が刻まれている。



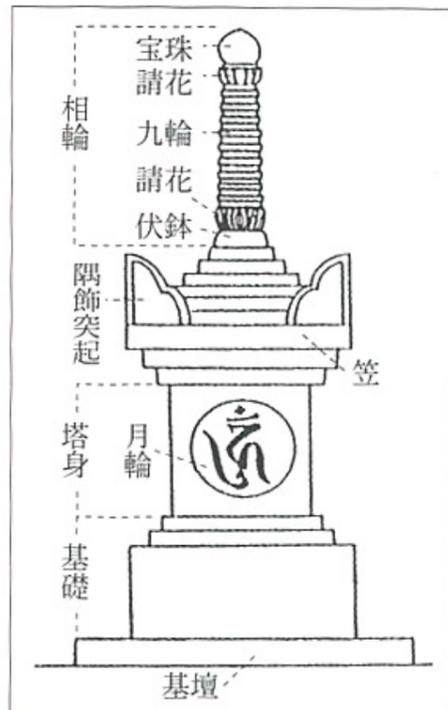
石造物の種類

佐世保の中世の墓碑はそのほとんどが宝篋印塔か五輪塔か無縫塔もしくは自然石で出来た板碑で形成されている。

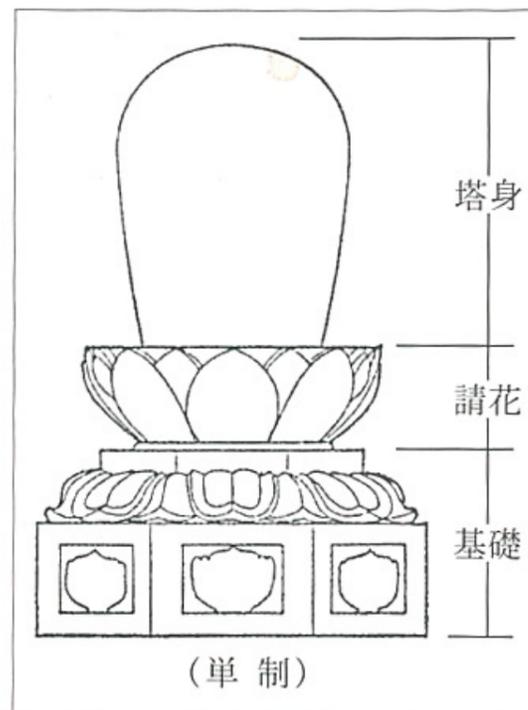
石造物の各部と名称



五輪塔の各部の名称



宝篋印塔の各部の名称



無縫塔(お坊さんの墓)

宝篋印塔(ほうきょういんとう)

宝篋印塔は、宝篋印陀羅尼經(ほうきょういんだらにきょう)を納めた塔で供養塔、墓碑銘として鎌倉時代から室町時代に全国に広まった。宝篋印塔の造りは、上から相輪(そうりん)、笠、塔身、基礎で構成される。相輪は、宝珠(ほうじゅ)を頂点に、下に請花(うけばな)、九輪(くりん)、伏鉢(ふくばち)がある。相輪は釈迦の遺骨を祀る「ストゥーパ」の原型を残した部分といわれる。笠には四隅に隅飾がある。塔身の四方に梵字(ぼんじ)を配した月輪(がちりん)がある。

五輪塔(ごりんとう)

五輪塔の形はインドが発祥といわれ、日本では平安時代末期から供養塔、供養墓として多く使われるようになる仏塔の一種。五輪塔の思想は、宇宙は地、水、火、風、空の五大元素で形成されているという**五大思想**をもとにしている。塔は、基礎(地輪)、塔身(水輪)、笠(火輪)、請花(風輪)、宝珠(空輪)からなっている。

無縫塔(むほうとう)

主に僧侶の墓塔として使われる石塔(仏塔)

石の種類

佐世保地区の中世石造は周辺の地区と少し異なった様相を呈している。例えば大村地区などの場合一部の例外を除き、全体に**緑泥片岩製**が使われ、16世紀後半に至って緑泥片岩製を補う形で**佐賀型の安山岩**があらわれてくる。これに対し佐世保全域の中世石造は全体に**緑泥片岩製塔**がつくられているが、それは15世紀前半以降であり、それ以前は**佐賀安山岩製塔**が造られている。つまり佐世保地区における最初の中世石塔類は**佐賀型安山製塔**であり、15世紀前半以降の緑泥塔文化とは明らかに違いが見られる。



緑泥片岩製(りよくでいへんがん)

緑泥石を主成分とする結晶片岩。暗緑色でつやがあり片理が発達している。庭石などに利用。緑泥石片岩。

西彼杵半島に産出する



安山岩(あんざんがん)

火山岩の一種で、二酸化珪素含有量が玄武岩より多く流紋岩より少ないために灰色っぽく見えるもの。「安山」はアンデス山脈の意。

佐賀地区で多く産出することから佐賀型安山岩ともいう

